

兵庫保険医新聞

第1619号
2010年4月15日

発行所 兵庫県保険医協会
http://www.hhk.jp/
〒650-0024 神戸市中央区海岸通1丁目2-31
神戸フコク生命海岸通ビル5F ☎078-393-1801
(1部350円送料共・年間購読料12,000円)
振替01190-1-2133
(会員の購読料は会費に含まれています)

神戸ひまわり号走る 障害者の願い乗せ彦根へ

「列車に乗って旅をしたい」という障害者の願いを乗せて3月21日、神戸ひまわり号が滋賀県彦根市へ走った。昨年は新型インフルエンザの流行により中止となったため、2年ぶりの運行。待ち望んでいた参加者らは、彦根城を眺めながら城下町を散策し、買い物などを楽しんだ。今回は障害者とその家族121人と介助ボランティア80人が集まり、協会からは大西和雄評議員(実行委員長)、福田俊明理事ら9人が参加した。本紙3月5日号で呼びかけた募金には、協会会員10人からあわせて7万円が寄せられた。



彦根駅前記念撮影。右後方が福田先生

今号の記事	
2009年分確定申告の特徴	2面
診療報酬改定Q&A(医科)	3面
研究 臨床医学講座より 面 プライマリケアのための関節のみかた	4・3面

患者署名にご協力を!

追加は、FAXにて078-393-1802へご注文ください

2010 改定 インタビュー (医科①)

診療所は マイナス改定



理事・研究部長(たつの市) 清水 映二先生

期待に応えず あらたな矛盾

—— 今次改定は政府公称では0・19%プラスですが、薬価引き下げ分を本体に回していないため、実際は0・03%の「ゼロ」改定となりました。

再診料引き下げと 地域医療貢献加算

—— 診療所の再診料が71点から69点に2点引き下げられ、「地域医療貢献加算」3点が新設されました。200床未満の病院の再診料を9点引き上げたことが、疲弊する中小病院にとってはよかったです。診療所分を下げたことは大きな問題だ。病院と診療所を対立させるようなやり方で許せない。

明細書発行 なぜ義務化

—— 従来の領収証に加え、患者の求めがあれば診療報酬の算定項目を記した明細書を発行しなければならぬ。一枚の紙で医療行為について患者とわかりあえるかというところ、決してそうではない。本来は患者との対話を通じてこそわかりあえるもの。わけのわからない算定項目を印刷しただけで医療の内容が透明化されるといっては、本当に間違っていた方が、「電話があれば、

笑顔に元気も戻った

三田市・歯科 福田 俊明

バンクーバーパラリンピックは、日本の輝かしい成績と共に幕を閉じた。障害と関係のない人にも感動を与えたのではないかと、そんなことを考えながら、JR神戸駅北側広場に集った。すでに受付をすませ、期待に胸を膨らませている顔・顔・顔。

実行委員長のあいさつなどセレモニーがあり、いよいよ旅の始まり。皆さんでホームへ。ホームの向こうから「ひまわり号」が迫って来て乗車。車いすの方から手際よく、思ったよりスピーディー。

車内では参加者が班に分かれて、自己紹介など和気あいあい。班旗作成では、各班ユニークなのができてあがっていた。

2時間弱の列車内のお楽しみも終わり、いよいよひまわり号は彦根駅のホームへとすべりこんだ。

お昼前、城東小学校へ班でゆっくり移動。思い思いのお弁当をほおぼり、い

地域医療貢献加算は再診料引き下げ分の補てんのつもりで、中協の議論も経ず突然出てきており、あらたな矛盾を医療現場に生み出す。算定すれば24時間対応が義務化される。しかも明細書に書かれるので、患者からも24時間対応しているから、「24時間対応をしていない医療機関」ということになってしまふ。そういう無茶苦茶な線引きに対して、現場の医師たちは非常に憤っている。

「これまでも多くの開業医は、時間外でも地域の患者さんの対応をしてきたのではないだろうか。」

「従来の領収証に加え、患者の求めがあれば診療報酬の算定項目を記した明細書を発行しなければならぬ。一枚の紙で医療行為について患者とわかりあえるかというところ、決してそうではない。本来は患者との対話を通じてこそわかりあえるもの。わけのわからない算定項目を印刷しただけで医療の内容が透明化されるといっては、本当に間違っていた方が、「電話があれば、

兵庫県保険医協会 第77回評議員会

日時 5月16日(日) 13時~
会場 保険医協会会議室
特別講演 15時30分~



「鳩山政権を診断する」

講師 法政大学大原社会問題研究所長 五十嵐 仁 教授(写真)

政権交代から半年、迷走する鳩山政権をどう見るのか。参議院選挙の展望も含め、戦前からの社会科学研究所として有名な大原社会問題研究所所長、五十嵐仁(いがらし じん)先生にうかがいます。

お問い合わせは、☎078-393-1801まで

燭心

この4月から新しい診療報酬のもと、レセプト請求が始まった。その内容を斟酌すれば、ため息をつかずにはいられない。民主党は野党であった頃、診療報酬を10%引き上げる必要がある、できなければ地域医療は崩壊すると主張していた。民主党が政権政党になった時、診療報酬が10%上がるものと確信して大喜びしたものだ。それが3%になり、さらに3%の引き上げがいつの間にか0・19%になり、ついにはごまかして実は0・03%と判明。多くの先生方が、がく然とされたと考えられる。政治家はなぜかとも自らの主張をコロコロ変えるのか? やぶ医者か診断をコロコロ変えるので、患者がいつまでも良くならないのと同じではないか? 財務省の主張する「増え続ける財政赤字」のためという常套文句も信用できない。多くの識者から、算定基準に問題があり「そんなに財政赤字がひどいわけではない」と指摘が寄せられている。戦後65年、わが国の行政・立法機構は明らかに硬直化している。役人は自己防衛のため机上のそらばんを弾くのに一生懸命で、公僕として「国民のために清貧に」生きる気概に欠けている。政治家は一部の例外を除き、目先の損得で離合集散を繰り返している。大局を見据えて不動の政策を継続する政治家が、極めて少ない。今のわが国に欠くべからざるものとは何か? それは経済成長ではなからうか。何をなすべきか? まず正規雇用を拡大し、消費税を廃止すればよし。(燈)